

よつ葉協力会総会発表紹介 8月4日協力会員150名が参加し開催されました。

グリーンオイルプロジェクト代表 稲葉光國さん

東電福島原発放射能汚染から始まったグリーンオイルプロジェクト —市販オイルの問題点と植物油の価値を守るために—

一面の商品評価委員会が訪問したグリーンオイルプロジェクトは、よつ葉生協と深い関わりを持っています。

2011.3.11の東電による放射能汚染の除染をしながら、有機農業の回復を目指した取り組みであったからです。田畑の除染をあらゆる方法で実際にやってみることで、人の手や植物の力を借りてすすめてきた過程でありました。よつ葉生協が放射能問題を克服するにあたって、有機農業者の土を回復させる活動に学ぶことが多く、共に歩んで今日があります。

有機農業再生のために

「油脂作物によるセシウムの回収、代かき除染、堆肥、雲母、カリウム投入で吸収抑制」

- ① 反転耕⇒代かき除染、なたね、ひまわり、大豆の栽培等によってセシウムを回収し、除染をすすめる。
- ② コールド製法で植物油を搾油精製し経営の再建を図る。
- ③ 遺伝子組み換え、農薬等で汚染されている輸入植物油から、安心安全な植物油の地域自給を目指す一歩とする。

2017年は③中心にした地域自給圏活動に向けてすすめていきます。2016年の日本の自給率は38%に低下しています。そして、日本の主要農作物(米・麦・大豆等)の種は国、県の管理で守られていましたが、種子法が廃案となり、民間の企業が種子の権利を買売できるようになります。遺伝子組み換えをすすめている



「グリーンオイルプロジェクト」代表 稲葉光國氏

諸外国の大手企業の参入がすすんでいます。

今後、在来の品種の保存が重要になります。グリーンオイルプロジェクトは、遺伝子組み換え品種の作付け制限を含めた国内種子保存法の立法を目指していきます。

基本食料の7割を有機農産物とその加工食品で地産地消をすすめていくと稲葉さんは話されておりました。

除染から始まり、食用油の問題点を克服し、地域で自給力を高める活動をつなぎ広めているグリーンオイルプロジェクトの活動は、よつ葉生協の道しるべと確実になっています。

(会長 富居)

株式会社 ニッコー 会長 山崎貞雄さん

「自分の子どもに安心して食べさせられる食品を作る」が会社の理念です！

「くらら」の惣菜ページに毎週ある「毎日のお弁当おかず」コーナーは、お弁当を作るお母さんの強い味方です。忙しい朝に、「すべて手作りににはできないけれど、安心安全なものを食べさせたい」という組合員さんの願いからできました。いくつかある商品から、2種類以上合わせて買うと、「ちょっとお得」になるのも嬉しいですね。

このコーナーで、毎週登場する会社が「ニッコー」さん。1984年の創業以来、「化学調味料一切不使用・国産原料使用」を揺るぎない想いとして貫き通しています。「作っている自分自身も消費者」という目線を常に忘れず、たとえ法的な基準をクリアしていても、納得のいかない商品は作りません。創立者でもある山崎会長は、「添加物は、知れば知るほど使いたくないですね。」と言います。

近年は、より安全な材料を手に入れるために、「ニッコー農園」で無農薬の野菜作りに力を入れています。近くの耕作放棄地に地域の方の協力を得て、モロヘイヤ・オクラ・人参・キャベツ・さつまいも・ナス等の野菜を作っています。長い間使われていない土地は、すぐには畑として使うことができず、重機で「開墾する」ところか



らスタートしたそうです。人件費やその他を考えると、事業的に農園経営は厳しいそうですが、「安心安全なものづくりのためには、やらなければならないことですから」という山崎会長の言葉に、「揺るぎない信念」の重みを感じました。ニッコーさんの商品は、くららの「総菜」・「軽食」・「嗜好品、デザート飲料」コーナーでご紹介しています。

(理事長 倉持)